

掛川市健康調査報告書

平成 25 年度

平成 26 年 3 月

掛川市健康福祉部保健予防課

掛川市吉岡彌生記念館

東京女子医科大学看護学部

掛川市健康調査報告書

平成 25 年度

平成 26 年 3 月

掛川市健康福祉部保健予防課

掛川市吉岡彌生記念館

東京女子医科大学看護学部

掛川市吉岡彌生記念館館長あいさつ

館長 高山幹子

平成25年度の掛川市健康調査報告書が出来上がりました。吉岡彌生記念館が開館して15周年目に当たり配布される本報告書は、記念号としても相応しいほど充実した内容の報告になっています。東京女子医科大学看護学部のMONAC企画委員会によって募集され、その応募の中から採択されたテーマを基に編まれた単年度の報告書です。掛川市の健康と生活習慣の調査を主たる目的として市民の皆様のためにまとめあげられています。この報告書は掛川市はもちろん看護学部・記念館を含む多くの施設に配布されています。さらに東京女子医科大学機関リポジトリにも登録され、日本国内はもとより広く世界までにおよび誰でも目を通すことが可能であり、報告書は対外的に高く評価されていると伺っております。掛川市の誇れる報告書と言ってもよいでしょう。

さて平成25年度の報告書では、昨年度の報告「高齢住民はどのように最期を迎えたいのかに関する研究」から高齢者とその家族を対象にセミナーを通してアンケート調査が行われ「最期の迎え方セミナープログラムの開発」を行いました。また阪神淡路大震災と東日本大震災という想像をはるかに超えた大災害を体験し分かったことにより、成人や高校生以外にも中学生を対象に「災害時における手当の活用—中学生が学ぶ手当の技術」の報告をしました。

以上の2題とも現実視されている南海トラフ地震を想定して試みを行った点で、即社会に還元出来得る貴重な報告と言えましょう。

はしがき

東京女子医科大学看護学部
MONAC 企画委員会
平成 25 年度委員長 守屋治代

平成 25 年度に実施されました健康調査活動につき、本報告書をもってご報告いたします。今年度は、以下の 2 題が実施されました。

- ・最期の迎え方セミナープログラムの開発
- ・災害時における手当ての活用—中学生が学ぶ手当ての技術—

両調査とも、僧侶による講演会や防災訓練時の「手当て」の実施といった、実際に市民が参加するプログラムを組み入れております。このような実際の介入プログラムの実施には、調査者だけでなく多くの関係者の皆様を巻き込んでのご協力をいただいたと聞いております。ご協力いただきました皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

この健康調査活動は、平成 11 年に旧大東町における健康調査活動として開始され、その後平成 17 年からは掛川市健康調査として継続され、今年度（平成 25 年度）で 15 年を経過いたしました。当初は、保健予防課の住民健康調査と協働した調査テーマが主なものでしたが、その後様々な観点からの調査課題が取り上げられてきました。それらは、掛川市民の健康保持・増進に貢献することを基本的な方向性として、東京女子医科大学看護学部教員の専門性に基いたものです。

何事も長期にわたって質の高いものを生産し続けていくには、適切な自己評価・自己点検が必要です。MONAC 企画委員長として本調査活動につきましても、15 年経過を契機に、本調査のあり方について、その使命や役割・方法について更なる研究をし、より意義深いものにしていけるようにと考えております。関係者の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

研究者名簿（50音順）

味木 由佳 （東京女子医科大学看護学部）
下平 唯子 （東京女子医科大学看護学部）
徳田 玲子 （東京女子医科大学看護学部）
原 美鈴 （東京女子医科大学看護学部）
山元 由美子 （東京女子医科大学看護学部）

調査協力者

掛川市健康福祉部 保健予防課一同
掛川市健康福祉部 高齢者支援課一同
掛川市健康福祉部 地域医療推進課一同
中東遠総合医療センター看護部一同

事務局名簿

服部 憲成 （掛川市吉岡彌生記念館）
石井 佳奈子 （掛川市吉岡彌生記念館）

—目次—

吉岡彌生記念館館長あいさつ

はしがき

研究者名簿

報告

I. 最期の迎え方セミナープログラムの開発

原 美鈴、山元由美子、味木由佳、下平唯子……………1

II. 災害時における手当の活用-中学生が学ぶ手当の技術-

山元由美子、徳田玲子、下平唯子……………11

掛川市健康調査報告書(平成 25 年度)

発行責任者 守屋 治代

発 行 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学看護学部
MONAC 企画委員会
守屋治代 宮内清子
服部真理子 味木由佳
Tel 03-3357-4804(代)